

AKITA Biz Forest

あきたBizフォレスト TOPインタビュー

TOP INTERVIEW

プロ冒険家／夢を追う男
阿部 雅龍 氏

1982年秋田県生まれ。大学生の21歳から冒険活動を開始。単独かつ人力であらゆる手段で世界を冒険する。執筆・講演・メディア出演の他に東京・浅草で人力車阿部屋を営む。小学生たちとの夏の三陸海岸冒険ウォーク100km主催。約100年前の同郷秋田の探検家白瀬嘉南極探検隊長の足跡を延ばしての南極点徒歩到達を目指す。著書 学校推薦図書『次の夢への一歩』角川書店。第26回植村直己冒険賞受賞。所属『人力チャレンジ応援部』



辿り着きたい先は?どんな生き方をしたいか?を明確に!

今回のインタビューではプロ冒険家の阿部さんにお話を伺いました。「なぜプロ冒険家になろうと思ったか?」から世界中を冒険した阿部さんの視点だからこそ見える秋田の良さやビジネスチャンスをお聞きしました。

工藤 今日は宜しくお聞かせいたします。植村直己冒険賞の受賞おめでとうございます。

阿部 ありがとうございます。

工藤 早速ですが、多くの皆さんが阿部さんに聞きたいことだと思いますが、そもそもどうしてプロの冒険家になろうと思ったのかをまずお聞かせください。

阿部 私がまだ10歳の時に母親に買ってもらった冒険家の本「未知の世界を開いた探検」がきっかけです。その後年月が経ち秋田大学に進学しました。3年生にもなると周りは就職活動の話をはかりだったのですが、私自身は就職に全く興味が湧かず、さらに自分でやりたいことすら見つからないで悩んでいました。そんな時にふと昔母親が買ってくれた「未知の世界を開いた探検」を読み直してみたら、そうだ自分は冒険家に憧れていたんだ!そして10歳の頃に夢中になっていた冒険家を目指そうと決意しました。しかし周囲の友人に冒険家になるとことを伝えると、現実逃避していると思われ反対されたり、しまいには相手にしてもらえなくなったりもしました。挑戦は夢やロマンとも似ているので、今思えば周囲からそう見えるのも仕方なかったとも思います。中でも特に女手ひとつで私を

育てて大学まで入れてくれた母親には猛反対されました。申し訳ない気持ちもある一方で、自分の選択に後悔が全くないのも事実です。もっとも今では母が一番の理解者であり応援者の一人でもあります。

工藤 そもそも冒険家を目指したのも母親のプレゼントがきっかけなので、お母さんとしては何ともいえない心境でしょうね。ところでプロの冒険家という肩書を持った人は中々に稀な存在だと思いますので、自分で切り開いていくことや挑戦が相当に必要だと思いますが、阿部さんのその原動力になっているものは何でしょうか?

阿部 まず私は幼い時に父親を亡くしています。本当に父親との記憶がなくて、父親の人となりとは母から聞くことでしか知ることができませんでした。そして「若くても人間は死ぬ。」ということを考える環境に生まれたことが、私の挑戦する姿勢にどこかでつながっているのかなと思っています。いつ死んでもおかしくないから、やりたいことをやりたいときにやるという考えが根底にあります。また今はプロの冒険家として、好きなことをできているので、好きなことをやれているという楽しさも原動力となっています。

工藤 好きは何よりの推進力であり原動力ですね。そういえば阿部さんはプロの冒険家ですが、浅草で人力車を引くお仕事もしていますが、どのような目的があってされているのでしょうか?

阿部 大きくは三つの目的があります。それは仕事とトレーニングの両立、コミュニケーション能力の向上、日本文化を体現することです。まずは仕事とトレーニングの両立。やはり冒険家として活動するためには継続的に身体を鍛え続けなければなりません。そこで人力車を引くことは、プロ冒険家としてのトレーニングの身体づくりができると同時にお金も稼ぐことができる。まさに一石二鳥で非常に最適な活動だと思っています。次にコミュニケーション能力の向上。冒険家の活動を続けていくためには、冒険家としての私自身や活動を分かりやすくかつ魅力的にPRし伝える能力が必要不可欠だと思っています。なので元々口下手だった私にとって、この欠点は死活問題でもありました。しかし人力車の仕事は基本的に歩合制で、実のところ営業スキル、言い換えればコミュニケーション能力の優劣が最も収入に直結するといっても過言ではありません。そういった意味では人力車の仕事をすれば、その能力も必然的に高まっていくと思って頑張っています。最後に日本文化を体現すること。世界の冒険者と話していると、やはりそれぞれの国のことを話すことが多くなります。その時に自分も日本のことをちゃんと説明できるようにしたいと思っています。最初は日本のことを海外の方に説明できませんでしたが、海外に行くと必ず故郷日本の話を聞かれましたので、日本文化や日本の歴史について理解できるようになりたいと思

あきたBizフォレストTOPインタビューは、秋田の起業家と企業環境を応援することを宣言いただいた100名以上の経営者の皆様を中心に、起業家に役立つ話題と起業家へのメッセージを対談形式でまとめたものです。

いましたし、海外の方により魅力的に伝えたいと思いました。そういう意味では浅草で人力車を引くことで日本の魅力をたくさん学ぶことができていると思っています。

工藤 そういえば、日本文化や自身のアイデンティティを話せる人でありたい。そんなお話は私の身近な大学生たちからもよく聞くことがあります。一方で秋田県人全員にとって秋田県外へ秋田の魅力を伝えることは、これと同じようなことのように思います。

阿部 同感ですね。しかし違いを理解するためには比較する物差しを持っていなければなりません。なので秋田の若い人には、もっともっと外を見る機会が提供できたらいいと思いますね。その物差しをもって秋田大使みたいな感覚で秋田の魅力を伝えられる人がたくさん増えればいいですね。

工藤 外側がわからなければ、内側の良さにも気づけないということですね。誰かも言っていました。秋田の流出人口は多少増えてもいい。ただきちんと秋田の良さや郷土愛を備えていれば、秋田大使として活動し結果的に関係人口が増えればいいと。ではプロ冒険家として世界中を旅し、人力車夫としても世界の観光客との会話もある阿部さんからみた秋田の魅力的な資源はございますか?

阿部 ちょっと冒険家的な回答ですみませんが鳥海山です(苦笑)。GWにもスキーができて、海に向かって滑れる独立峰は世界的にも少ないです。なおかつ、霊峰でもあり、山岳信仰もあるので、観光や文化面でも魅力があ

るところだと思っています。四国のお遍路のように、土地と信仰を結び付けると大きく魅力がアップしますし、外国人は日本の神道に関してとても関心が高いです。間違いなく世界にアピールできるコンテンツだと思います。そうだしもう一つあります。大湯村って北海道以外で国内唯一地平線が見える場所だと思うんですね。それって結構すごいことだと思いませんか? PRすればきっと面白い。

工藤 なるほどどちらも冒険家阿部雅龍さんらしい回答で嬉しいです。ベンチャービジネスは和製英語のようですが、もともとの語源は英語のベンチャー(venture)・アドベンチャー(adventure)らしく、日本語で言うところの冒険ですね。そんな阿部さんから、もしよろしければ起業家のみなさん或いはこれから起業する方にメッセージがあればお願いいたします。

阿部 私は全て自分が決断した結果でしか、自分の人生は作られないと思っています。だから辿り着きたい先をどこにするのか?或いはどんな生き方をしたいか?を、まずは明確にする必要があると思っています。＝自分の幸せは何か?という問いの答えを明確にすることだと思っています。そしてもしその幸せ

を得るためには、挑戦が必要だったり、夢を追いかけることだったりが必要であれば、やるなら人生をかけて本気で向かえばいい。でも夢や挑戦が必ず必要なものでもないと思いますので、やらないならやらないと決めることも大切だと思っています。自分の幸せは何か?或いはどんな生き方をしたいか?は、それぞれが成功に近づくためのとても大切な問いではないかと思っています。

阿部さんに趣味をお聞きしてみました。

篠笛(しのぶえ)という楽器を演奏することにはまっています。篠笛は日本らしいですし、繊細な音色がとても好きです。唯一の日本発祥の楽器! ?とかも言われたりしますが、とにかく日本のアイデンティティを感じることができます。人力車で日本全国の一宮を周っている際に篠笛の魅力に取りつかれ、それ以降は冒険の時にも持ついくようになりました。日本のお祭りには必ずといっていいほど用いられている楽器でもあるので、飛び入りでお祭りに参加することも好きな理由の一つです。

本日は貴重なお時間とお話を本当に有難う御財増した。

インタビュー

合同会社ジェグルス(共同事業体ジェイワン) アントレプレナーコンシェルジュ 工藤 実

ライター 秋田大学2年 小林 恵大

企画 共同事業体ジェイワン(秋田市ビジネススタートアップ支援事業)



※撮影のために一時的にマスクを外しています。